

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2872200809		
法人名	社会福祉法人はりま福祉会		
事業所名	せいりょう園グループホームまどか		
所在地	加古川市野口町長砂1076		
自己評価作成日	令和 2年 11月 6日	評価結果市町村受理日	令和3年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action=kouhyou_pref_topjigvosyo_index
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市小花1-12-10-201		
訪問調査日	令和2年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成13年の開設以来医療、看護、介護が連携、情報を共有し利用者の健康を第一に考え、安心して日常生活を送って頂けるよう支援している。
 高齢でも認知症があっても一人の社会人として地域の一員として、住み慣れた場所で暮らし続けて頂いている。日中は玄関の施錠をしていないので、外出は自由である。後方でそっと見守りをすることもある。
 平成18年度より看取り加算制度も導入、最期迄暮らして頂くことも出来る。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日々是敬老。認知症があっても、障がいがあってもその人らしく、日々の暮らしの中で喜びや誇りを感じてほしいと職員は試行錯誤を重ねながら、ケアを行っている。リビングを見渡せる場所に対面キッチンがあり、ご飯の炊ける匂いや野菜を刻む包丁の音などの料理の気配を感じながら、利用者は思い思いに時を過ごしている。食事はできるだけ自分で口から摂取できるように、食器の形態に気を配り嚥下状態に合わせた食事を提供している。大きなテーブルに手作りの感染防止シールドを立てて、利用者はおいしそうに食事を続けている。明るく話しかけ笑い転げる利用者もいる。食べ終わった人から、窓辺の日の当たるソファに座り、キッチンで仕事中の職員に話しかけたり、一人で笑ったり、明るく暮らす毎日が垣間見える。法人理念に感銘した職員は、温かく利用者を見守っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 者 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念 2872200809				
1	(1) 社会福祉法人はりま福祉会 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づき、高齢でも認知症であっても一個の社会人として、又地域の一員として捉え、それぞれの持っている力を十分に発揮して頂けるよう支援している。その為の環境づくりにも配慮している。	老いて身の回りの世話を介護職にゆだねる姿を当たり前ととらえ、最後まで利用者の体と心に寄り添い、普通に暮らし続けることを支援している。法人の施設長の言葉は法人全体の理念となり、職員は常に意識して支援に反映させている。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、自治会費も納入している。毎月広報誌や回覧も届けて下さっている。夏祭り、秋祭り等季節の行事にも都度声掛けをして頂いている。 本年度はコロナの影響で、地域の行事は全てキャンセルとなっている。	コロナ禍のもと、すべての行事が中止となっている。造形教室や自彊術については、感染防止対策をして先生が来訪しており、利用者にはストレス解消と共に唯一の楽しみとなっている。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体の催しであるが、月に一回「介護について語ろう会」と題して会をしている。その月により認知症カフェをしたり、日々の介護の中での疑問点等話し合いをし、情報の発信をしている。	/	
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度実施している。地域の方、家族、市の職員、嘱託医の方々に出席して頂いている。 事業報告や地域の情報、家族からの日々の介護に対しての要望を聞かせて頂き、業務の改善に生かすべく努力をしている。 本年度3月よりコロナの影響で行政からの中止通達を受け、実施していない。	3月の中止以来開催できていない。中止の案内を出した時に、併設事業所の自己評価についての意見の返送を依頼し、運営推進委員から承認のサインが戻ってきている。	実際には開催できないケースが続くと思われるが、定期的に書面での状況報告等をして、メッセージの返信を依頼されてはいいかがか。また、その議事録を機関誌と共に家族に送ってはいかがか。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の案内は毎回送付している。議事録も必ず介護保険課に届けている。認定調査も市の職員が来訪してくれている。主治医の意見書交付依頼の際には出向いている。	コロナ禍のもと、認定調査は1年延長となり、市庁舎に向くことはない。2市2町グループホーム協会の事務局は法人本部に置いており、10月に総会が開催され、報告や勉強会を実施して交流を深めている。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に一度の事業所の会議の中で話し合い、全職員で拘束のないケアの実施に努めている。 体動が激しくて一時的にベッド柵を増やしたこともあるが、現在該当者はいない。行う際には家族の了解を得ている。	出入りに施錠は無く、外に出たい利用者には良く話を聴いて、見守りに努めている。施錠しないことでのリスクについては、家族も了解している。行政からの通達に従い、「外出禁止」と玄関に貼りだしている。	庭で外気浴程度でも、閉塞感の解消と気分転換の効果も大きいと思われる、利用者が日常生活を営むうえでは必要な事ではないか。

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に一回勉強会を開催している。どんな行為が虐待に該当するのか、全職員で周知し介護にあっている。 個室で個別のケアが大半であるので、常に自信を律しながら利用者に関わってくれることを願っている。	事業所の特徴として個室での個別のケアが大半であるために、コロナ禍のもと職員に負担がかかっているのではないかと管理者は感じている。出来るだけ管理者も現場をサポートできるように、配慮している。職員のストレスチェックは法人が実施している。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設では現在2名の方が制度を利用されている。制度に関する知識は法人内の勉強会や語ろう会で習得している。家族と法人が常に連携を取りながら本人にとって必要な支援が実現出来るような取組みをしている。	制度利用者があり、研修も行っているため職員は一般的な知識は持っている。契約時に家族に制度に関する紹介は行っていない。	家族の状況は変化すると考えられるので、参考までに契約時にパンフレットを配布し、制度に関する紹介をしていただきたい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に十分に聞き取りをし、情報交換をし、本人、家族に施設の雰囲気を見て頂いている。又施設の理念で日々の生活の中で起こりうるリスク、拘束しないことにより、起こりうるリスク等を説明し、納得して頂いた上で契約している。	契約前には必ず職員が利用者本人と面談し、情報の把握に努めている。契約書は説明後、一旦家に持ち帰ってもらいじっくり考えてから契約に至るよう、配慮している。看取り、DNAR(心肺蘇生を試みない意向)、個人情報、金銭管理等についての同意書を保存している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	どなたでも、いつでも意見を頂けるように玄関にご意見箱を設置している。 月に一度サービス改善委員会を開催し、サービスの改善に繋げている。 また家族が来訪された際は日頃の利用者の状況を報告し、ケアについて要望等を聞いている。	家族の来訪時にその時の勤務者が状況報告をし、同時に要望の把握が出来るように、普段から利用者の情報共有に努めている。個人的な要望はあるが、運営に関するものはあまりない。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各事業所、法人内に意見箱を設置している。又職員が自ら相談出来る支援センターもある。 日々の業務の中では朝、夕のミーティングであったり、月に一度のまどか会議で意見交換をしている。	会議やミーティングの中で利用者のケア方法や排便調整等についての意見交換が行われることが多い。意見を出し合い、試行錯誤しながら支援を行っている。有給休暇は積極的に取得するよう勧めている。今後、主任が個人面談を行う方向で進めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が充実した仕事出来るよう、外部研修の機会も設けている。又法人内の研修も開催しているので、全ての職員に参加を促している。 資格を取得した際には報酬にも反映される。又自己評価、人事考課等で昇給賞与に繋げている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13			○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の会議、事業所ごとの会議、勉強会も行っている。新人職員を育成するプリセプター制度も導入している。 法人内で各委員会を設置しており、代表として参加してもらい、学ぶ機会を持ってもらっている。 又現場では抱えない介護として、ノーリフトも勧めている。		
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部施設との交流は2ヶ月に一度勉強会を行っている。年に一度グループホーム協会の総会を開催し、意見交換等で交流を深めている。又管理者会議も2～3回ある。 実習生の要請があればいつでも対応出来る。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居契約時に本人や家族、関係者から情報を聞き取り、全職員が共有している。 入居後も本人、家族がどのような生活を望んでいるのか、十分に聞き、出来る限り意向に沿った生活をして頂けるよう配慮している。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人、家族が何に不安や心配事として思っているのか聞き取り、安心して生活して頂く為の支援に役立てている。 入居後も色々な問題が発生した際には、その都度話し合いをし、より良いサービスを提供し、信頼関係の構築に努めている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に得た情報を基に、本人に再度意向を確認した上で、家族の思いを聞きながら現存能力を十分発揮出来るサービス、又計画を作成している。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で出来ること出来ないことを全職員が十分把握し、過剰な手出しは控えている。 施設内の掃除や自身の洗濯物を干したり、たたむ等の作業をして下さる方もいる。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を密にしながら情報を共有している。必要な日用品の購入をお願いしたり、受診の付添も依頼している。 サービス計画書作成の際は本人、家族の意向を聞きながら作っている。又モニタリング作成時にも十分な話し合いをしている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の訪問は自由にして頂いている。共に自室やホールで楽しそうに過ごされている。 本年度はコロナウイルス対応で面会中止となっており、希望により電話での近況報告となっている。	家族が消耗品の補充をしているので、窓越しに顔を合わせる機会が月に1回ほどある。電話の取次ぎはその都度行っている。地域の散髪屋が、毎月調髪に訪れている。自宅に帰りたい、お肉を食べに行きたい等、利用者の懐かしい場所の話は積極的に把握している。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールに設置しているテーブル席は特に職員サイドで決めていないので、自由に気の合う人同士が席を同じにしている。 時々些細なトラブルもあるが、出来るだけ深く介入せずに見守りをしている。時が経てば穏やかな表情に変わっている。 ご自身で居場所が決められない方は職員が手助けをしている。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、いつでも訪ねて下さるよう行事案内や機関紙を送付している。 時々近隣の商業施設等でお会いすることもあり、気軽に挨拶もしている。又相談があれば相談室にも繋げている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ本人の想いに沿ったケアを心掛けている。重度の方でご自身の想いを表出出来ない方には日々のケアの中で細かく観察し、質のいいケアを提供したいと思っている。	言葉の出にくい利用者は、バイタルチェックの数値には気を付けて、表情を見逃さないように努めている。職員は通りがかりには必ず声をかけることを忘れずに、支援している。リビングでテレビを見ているときに、「コロナは怖いね」と久しぶりに発語があった利用者があった。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に出来るだけ自宅を訪問したり、家族や利用されているサービス、又機関に情報を頂いている。入居後も本人やそれぞれの関係者から情報を頂きながら、より良い生活が出来るように工夫している。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	昼・夕食の時間以外は自由に過ごして頂いている。利用者との関係の中でその時々の言動を十分に観察しながら心身の状態把握をし、記録に残している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれの利用者の担当者を決めており、年に一度ケアプランの見直しを行っている。1ヶ月に一度モニタリングを実施し、本人の現状とケアの内容を説明し、納得して頂けたらサインを頂いている。ケアの追加希望があれば伺い、計画に加えている。	職員は1人～2人の利用者の居室担当をしており、プランの作成、月1回のモニタリング、ケア方法の発信等を行っている。ケア記録については、わかりやすく要点を押さえて書くことや、観察眼を持つ事などに心がけている。記録の方法については会議で勉強会を実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各々の利用者のケース記録に日々の状態を細かく記録し、全職員が共有している。日誌、健康ノート、連絡ノート等を活用し、状況把握や、連絡事項の周知に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	週に一回造形教室、自彊術体操を行っている。又食事に関しては毎月誕生日メニューや郷土料理を提供し、非日常の機会も味わって頂いている。週に一回法人内の訪問看護ステーションからの訪問もあり、健康チェックもしてもらっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	玄関の施錠はしていないので外出は自由にして頂いている。後方で職員がそっと見守りをしている。地域の行事も関係者の方が誘いの声掛けをして下さるので、出来るだけ参加している。コロナが流行してからは外出は自粛して頂いている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれ主治医を決め、月に1～2度往診してもらっている。受診に出掛ける際は家族が付添って出掛けている。特変があれば日中、夜間に関わらず、主治医、訪問看護師と連携対応している。	利用者の殆どが、契約時に協力医療機関をかかりつけ医にしている。月2回の訪問診療と、毎週の訪問看護師による健康管理、歯科医の往診や口腔ケアによる医療連携ができています。それ以外の受診は家族の付き添いで行っている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価		
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所常駐の看護師がいないので、週に一回訪問看護師に健康チェックしてもらっている。日頃の様子を伝え、気になることがあれば相談し、アドバイスをもらっている。特変時にも報告し常に連携を取っている。			
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族、医療機関、職員が連携を取り、情報交換や相談をしている。退院時にはそれぞれの関係者が出席、カンファレンスを行い、内容は全職員が共有し、退院後の生活が安全で安心して頂けるように配慮している。	入院時は情報提供し、面会にて情報収集し早期の退院に向け働きかけている。退院時カンファレンスにより、事業所での生活が不安なく過ごせるよう医療との連携を図り、受け入れ体制を整えている。		
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際には希望があれば看取りも可能であることを話している。高齢者の施設であるので、入居した時から看取りは始まっていると捉えたい。 家族の希望を聞きながら施設で出来ることを十分に説明し、ケアの方針を決めている。出来るだけ穏やかにその日が迎えられよう支援している。	契約時に看取りの受け入れを家族に伝え、重度化に備え家族の意向を聴きながら、医療との連携を強化している。理念にのっとり利用者の最期が自然な形で穏やかに迎えられれる事が、その人の尊厳につながると職員は理解し支援している。ほとんどの利用者が事業所で終末を迎えている。		
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には敏速に対応出来るように全職員が利用者の状態把握をしている。 毎日のミーティングの中でも再確認をしている。 応急処置は看護師の指示で行っている。			
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回夜間、日中を想定して火災避難訓練を行っている。又加えて自然災害に対する訓練も実施している。 非常食も備蓄しており、消費期限の確認もしている。 訓練時、地域の方にもっと発信していきたい。	避難訓練は年に2回、昼間と夜間想定を実施している。自然災害(地震)に関する訓練も実施している。災害時の避難場所は確認しているが、移動が困難な場所であり建物2階に避難を想定している。火災発生時はベランダに出よう申し合わせている。地域への発信が不十分である。	運営推進会議等で情報発信し、地域住民を巻き込んだ避難訓練を企画されてはいいかがか。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生き方や想いを尊重し、人としての誇りや尊厳を損ねることがないようにしているが、長い間のお付き合いから親しみの気持ちが過ぎてしまい、失礼な言動が見られることがある。 全職員が認識し自重していきたい。	利用者の声掛けは、名字にさんを付け呼んでいるが、職員と同姓の利用者が居る為名前で呼ぶ利用者もある。排泄の声掛けは耳元で話しかけ、コミュニケーションの取りにくい利用者には、2者選択の声掛けで確認している。表情や顔色に留意し思いを汲み取れるよう配慮している。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の進行に伴い、自身の思いや希望を表出出来ない方もいる。それぞれの方の表情や行動を深く観察しながら思いを汲み取り、ケアにあたっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼、夕食の時間以外は特にスケジュールを決めていないので、それぞれのペースでホールや居室で過ごされている。入浴の声掛けをしても拒否をされた場合は時間を置いて勤めている。 起床、就寝時間もまちまちである。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には自身の好みの服を着て頂いている。認知症の進行にて不可能な方は職員が季節に合った物を選んで着て頂いている。 必要な衣類は家族と相談しながら購入を依頼している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嚥下、咀嚼の能力に合わせて食材の形態を工夫して食してもらっている。ホールに対面した場所にキッチンがあり、調理の音やおいを直に感じて頂いている。自身が食された食器は出来るだけキッチンに運んでもらっている。	調理の下拵は今まで利用者が手伝っていたが、現在はコロナ感染防止の為調理は全利用者分を専任職員が行っている。利用者は食後の食器を運んでいるが、テーブル拭きは消毒液使用の為職員が行っている。テーブルの中央に感染防止シールドを設置し利用者は食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量、水分量はこまめに記録し、全職員で共有している。摂取量が少ない方にはプリン、ヨーグルト等の代替品を食して頂いている。水分は一度に多く摂れない方には頻回に介助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各々に合ったケア用品を揃え、自力で出来ない方は介助を行っている。 月に4回歯科衛生士、1回の歯科医診療を受けている方が5名いる。 職員も口腔内の保清について指導してもらっている。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的 に声掛けをしている。居室内のトイレの場所 が認識出来ない方には張り紙をして分かっ て頂けるよう工夫している。 紙パンツ、パットを併用し、出来るだけ利用 者の負担にならないようにしている。	排泄自立者が複数名いるが、殆どの利用者は 声掛けや一部介助を要している。リズム表(排泄 チェック表)で排泄パターンを把握し、個々に沿っ た対応をしている。ポータブルトイレ使用者やおむ つ使用者もいるが、トイレでの排泄を支援してい る。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	各々の排泄状態を細かく記録し、パターンを 把握し、職員全員で共有している。自然排 便を促す為、水分を多く飲用して頂いてい る。それでも便秘傾向にある方には、服薬で コントロールしている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週2～3回日中に入浴して頂いて いる。拒否のある方には無理に介助はしな いで、少し時間を空けて声掛けをしている。 入浴前は安全を考えて血圧、体温は必ず測 定している。 比較的自立している方は夜間に入られてい る方もいる。	入浴は週2～3回を基本に午前中に実施してい るが、拒否がある利用者には声掛けの工夫をし たり、午後に変更する等柔軟な対応をしてい る。必要時はシャワー浴をしたり、居室に浴室がある利 用者は夜間に入っている人もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じ て、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支 援している	一人ひとりの想いを大切に、ホールやそ れぞれの居室でテレビを観たり、ゆったりと 過ごして頂いている。 他の利用者や職員との会話を楽しみにして いる方もいる。 夜間は不安で眠れない方には寄り添って ゆっくり話を聞くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	薬情や健康ノート等を活用し、把握に努めて いる。 症状の変化が見られた時は主治医、訪問看 護師に報告し、適切なケア提供を出来るよう 努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎週外部の指導者に来訪してもらい、造形 教室、自彊術を実施しており、援助してい る。 自主的に洗濯物をたたんで下さる方もいる。 毎日タンスの中を整理されている方の表情 は活き活きしている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	従来だと庭を散策したり、春の花見や盆踊り等、家族と一緒に楽しんで頂いたり、地域の行事にも参加し交流を図ってきたが、本年度はコロナ禍の為、外出も出来ていない。	現在はコロナ感染防止の為、外出できないが、バイオリンコンサートをリモートで実施した。今後は家族の面会もリモートで行う予定である。洗濯干しに出る利用者はいるが、外への散歩は全面禁止としている。理美容は2か月に1回業者の来所により実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関心を持っている方もいるが、実際に所持している方は1名であるが、金額は確認していない。 何かを購入したいとの希望があれば、預り金があるので買って頂くことも可能である。 近くにコンビニもあるが、現在出掛ける方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1階ホールに公衆電話を設置しているが、現在使用している方はいない。携帯電話も1名の方が所持している。 家族から時々施設にかかってくるので、取次をしている。本人が直接電話をしたいとの希望があれば支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各々の希望の場所で雑談、テレビ鑑賞、飲食等をして過ごしている。 玄関、ホール、トイレには出来るだけ季節の花を置くようにしている。 ホールのガラス窓越しには広い庭があるので、木々や草花を見ながら季節の移ろいを感じて頂ける環境である。	リビングの窓から季節の花や果物が見え、陽が差す窓際から自然が観察できる。家族から贈られた四季ごとの写真や絵画、絵手紙などが飾られ季節を感じることができる。気の合う利用者同士が、ソファや椅子に座りおしゃべりを楽しんでいる。2階の利用者は自立度が高く会話が弾んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階、2階にはテーブル、テレビを設置しており、自室から出て来られ、一人でテレビを見ている方もいる。又家族の方と一緒にゆっくり過ごして頂ける場所として使って頂いている。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は新しい物を購入するのではなく、これまで使用していたものを持参して頂いている。 日々の生活の中で必要な物があれば、その都度家族に連絡をして、持参して頂いている。 馴染みの物が身近にあることで、安心され	事業所からの装備品に対し、利用者は使い慣れた筆筒やテーブルとイスの他に、家族写真や仏壇等を置いている。2階の利用者の部屋は広く、冷蔵庫や洗濯機も置いており、家庭の生活延長上で自由である。クローゼット設置により収納スペースが広く整理整頓ができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は全てバリアフリーに設計されている。必要な場所には手すりも設置している。1階～2階の移動はエレベーターを使用、車椅子、シルバーカー使用の方、又脚力の弱った方も自立した行動が出来るように支援している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災避難訓練は昼夜を想定して年に2回、自然災害に関する訓練も年に1度実施しているが、同敷地内の隣家には声掛けをしているが、他の周囲の方々には実施することは知らせていない。	施設の都合で訓練を実施する日程と時間を決めてしまうので、近隣の方には遠慮もあり声掛けが出来ていなかったが、共助の観点から考え出来るだけ参加をしていただけるよう声掛けをしていきたい。	現在コロナ禍で地域とのつながりがほとんど出来ていないが、終息後は利用者、職員共に近隣に出かける機会を作り、コミュニケーションを取りながら訓練の実施を伝え参加がお願いしたい。	12か月
2	26	現在職員1名が1～2名の利用者を担当し、ケアプランの作成とモニタリングを実施しているが、面会の少ない家族はなかなか話し合いをする機会がなく、モニタリングも毎月実施することが難しいのが現状である。	その方の生活全般を支えていくためには家族のサポートが必要なことが多々ある。都合の許す限り足を運んでいただき本人、家族を交えてケアの方向を決めていきたい。	まずは、電話を利用して小まめに近況報告をしていきたい。日常生活の中の大きな変化を伝えることも大事であるが、ほのぼのとするような言動も多々見ることがあるので、そんなことも伝えていきたい。今以上に利用者と施設に心を寄せて頂けるような環境をつくっていきたい。	12か月
3					か月
4					か月
5					か月

(様式2(2))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取り組んだ内容	
実施段階		(↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
			②利用者へサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
			④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
			⑤その他()
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	①自己評価を職員全員が実施した
			②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
			③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/>	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
			⑤その他()
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/>	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
			④その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/>	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った 結果を全職員に目を通すように指示をした。
			②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った 評価結果は自由に読んで頂ける場所に設置している。
		<input type="radio"/>	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
			④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	⑤その他(評価結果はいつでも自由に読んでいただけるように玄関に設置している)
5	サービス評価の活用		①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
			②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="radio"/>	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="radio"/>	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
			⑤その他()